

会議名	第4回厚木市観光振興推進委員会
日時	令和3年3月25日(木)14時～15時20分
場所	厚木市役所本庁舎 3階特別会議室
出席者	出席者 12人 厚木市観光振興推進委員会委員8人 事務局4人(産業振興部長、観光振興課長、観光振興係長、観光振興課副主幹)
<p>会議の経過は次のとおり。</p> <p>1 開 会 厚木市産業振興部観光振興課長</p> <p>2 挨拶 厚木市観光振興推進委員長 厚木市産業振興部長</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 第2次厚木市観光振興計画について 議事進行：委員長、説明：事務局 資料1-1、資料1-2に基づき説明。</p> <p>【意見等】</p> <p>(委員長) 資料1-1の計画書について、今日はホチキス留めした資料であるが、製本された冊子についてはいつ市に届くのか。</p> <p>(事務局) 市には3月31日に届く予定である。 委員の皆様には、4月以降に郵送する。</p> <p>(委員) 9ページのウ.交通ネットワークの充実の2段落目にある「令和元(2020)年」という記載が、西暦と和暦があっていない。どちらが正しいか確認すること。</p> <p>(事務局) 該当箇所は訂正させていただく。</p> <p>(2) 令和2年度事業の実施報告について 議事進行：委員長、説明：事務局 資料2に基づき説明。</p> <p>【意見等】</p> <p>(委員) あつぎ観光クーポン券並びにプレミアム付あつぎ観光券の換金状況について、どの業種でどの程度が使われたか、市の方で把握されているか。</p> <p>(事務局) 宿泊施設で配布しているあつぎ観光クーポン券については、その日のうちに消費されることが多いため、お土産や飲食での利用が中心であった。 市民向けに販売したプレミアム付あつぎ観光券については、普段の生活の中で少し贅沢したいというニーズがあり、肉や高価な食事などに多く利用されていた。</p> <p>(委員長) あつぎ観光クーポン券並びにプレミアム付あつぎ観光券の換金率の記載があるが、これらはいずれ100%になるのか。</p>	

- (事務局) 換金状況については3月11日時点のものである。店舗からのクーポン券の回収がすべて終わっていないため、今後換金状況の数値が高まることが予想される。
- (委員長) プレミアム付あつぎ観光券について、販売割合が100%になっていないが、当選したのに買わなかった方がいたのか。
- (事務局) 当選した方へ連絡が取れない事象があり、購入につながらなかった例がいくつかある。
- (事務局) これまで、鮎まつりなどのイベントを多数行っていたが、今年はコロナの影響で全て中止になったことで、例年とは異なる事業を実施した形になっている。
- (委員) 厚木市観光協会は、コロナ禍でよくやられていると思う。引き続き、市の観光振興に向けた取組を進めていただきたい。
- (事務局) 今年度、市から厚木市観光協会に1億円の交付金を支給し、クーポン事業をはじめとした様々な事業を行っていただいた。  
しかし、本年1月からの緊急事態宣言の影響で、1億円の予算のうち2500万円が繰り越しとなっている。この繰越金も使いながら、次年度も観光協会と連携し、取組を進めていきたい。

(3) 令和3年度事業について 議事進行：委員長、説明：事務局  
資料3に基づき説明。

【意見等】

- (委員) コロナ禍において、3密を避けられるアウトドア観光が人気になっている。私の家の近くにあるアウトドアショップも、今年のゴールデンウィーク辺りから客足が増加している。厚木市が借りて住みたい街ランキング1位にランクインしているので、キャンプの初心者である若いファミリー層をターゲットにした体験教室を、以前アウトドアのイベントを開催していた荻野運動公園で行ったら面白いのではないか。  
また、以前は厚木市が運営する七沢弁天の森キャンプ場があったが、現在は閉鎖されている。アウトドア人気もあるので、市営のキャンプ場があるといいのではないか。市民だけでなく、都心から近い立地も生かして市外からの誘客も図れると思う。
- (事務局) 話に出ていたアウトドアショップにおいて、プレミアム付あつぎ観光券が多数使われており、市民の方々がアウトドア商品を購入されたようである。近年のアウトドア人気もあり、次年度、アウトドアのイベントを開催する予定である。  
市営キャンプ場の開設については、事業者との調整等が必要になるため、今後の取組の参考とさせていただきたい。  
厚木は都心からも近い場所にあることから、近場で遊べる場所として打ち出していきたい。
- (委員) 平成大山講プロジェクト推進協議会事業の中で、レンタサイクル及びサイクリングガイド事業を実施する事業者を市内に誘致したとあるが、既に市内に業者が入っているのか。
- (事務局) 自転車観光を進めるに当たって、どのような方法が良いのか市

で検討した。神奈川県内でも、横浜市や湘南エリアは市が中心となって事業を行っているようであるが、費用面の負担が大きいことと、継続性の観点から、新たに事業者を誘致した。七沢地区に拠点を構えて営業は始まったが、レンタサイクル事業はまだ始まっていない。

市としては、レンタサイクルに関連する施策を立てて、推進していきたいと考えている。

(委員長) 自転車観光を推進するに当たっては、利用者が安全に楽しめるための整備が必要である。道路整備のような、ハード面での整備については市の方で考えているか。

(事務局) ハード面での整備は、現状考えていない。

市では、安全に走れるサイクリングルートを提案していきたいと考えている。ルート作成の際には、サイクルガイドの方と現地を視察し、事前に危険な箇所を把握した上で、利用者に伝えるようにしたい。

#### (4) 観光振興に係る意見交換について 議事進行：委員長

##### 【意見等】

(委員) 資料1-1の計画書39ページに、ワーケーションに関する記載があるが、厚木市に「ADDRESS」の拠点を作ってはどうか。

ADDRESSとは、全国にある拠点施設を一か月4万円で好きなだけ泊まることができる、定額住み放題サービスである。厚木市の近隣でも、清川村や秦野市の鶴巻温泉などに拠点がある。

パソコン一つあればどこでも仕事ができる方々のワーケーションとしての利用や、週末だけ利用する方々、老後を楽しむ方々など、様々な人が利用している。

(事務局) 拠点とはどのようなものか。

(委員) 空き家やホテル、ゲストハウスの一部の部屋などがある。

(事務局) 市では空き家対策が課題になっている。これらと絡めることで、市の取組として進めることも考えられる。関連する部署と情報交換して、今後の参考にさせていただく。

(委員) 清川村の拠点はどこにあるのか。

(委員) 道の駅清川の近くにある空き家を拠点施設としている。

(委員長) 厚木市が借りて住みたい街ランキング1位にランクインしているので、住む前のイメージを掴んでもらうにはよいのではないか。このサービスは、定額制の民宿のようなイメージである。ご紹介いただいたADDRESS以外にも様々な業者が同様のサービスを提供している。今後の取組の参考にさせていただきたい。

(委員) この事業で採算は取れるのか。

(委員) 管理人はほぼボランティアのような形になる。シーツの取り換え、洗濯、掃除代など、多少の収益は貰えるようである。

(委員長) 今回の委員会で、委員の皆様の任期も終えることになるため、一言ずつ感想をいただきたい。

(委員) 2019年度は鮎まつりなど、多くのイベントで賑わったが、2020

年度はイベントもすべて中止になってしまった。しかし、コロナ禍においても旅行を楽しみたいという需要があるので、首都圏の方々が近場で楽しめるような場所にしていけるとよいと思う。

(委員) 今回策定した第2次厚木市観光振興計画について、内容が充実しており、良いものができたと思う。

昨年はコロナの影響でお客様をガイドすることが出来なかった。ガイドする上では、お客様に気持ちよく過ごしていただくことが大事になる。

旅行者に満足していただくためには、トイレの整備も一つの大きな要素になる。広沢寺の駐車場のトイレは水洗のきれいなトイレになり、観光客に喜んでいただいている。そこで、あつぎ観光ボランティアガイド協会では、今年度は三川合流点から酒井運動公園までの河川敷にあるトイレを調査し、マップを作成した。

(委員長) 作成したトイレマップは公開しているのか。

(委員) 協会の内部資料として使用する目的で作成したため、外部への公開は行っていない。

(委員長) トイレの情報がグーグルマップなどにまとまっていると、観光客としてはありがたいと思う。このようなトイレなどの施設情報収集は、誰かが集中的に取り組まないと進まないの、今後も続けていただきたい。ガイドされるうえで、参加者からトイレの場所はよく聞かれるのか。

(委員) トイレの場所は、ツアー開始前に参加者へ伝えている。

(委員) この委員会が始まった時は、インバウンド客をどう誘客するかを重点的に検討していたが、今はコロナ禍で大きく方向転換してここまで進めている。このような環境の変化を踏まえた、計画になったのはよかった。

昨年、新東名高速道路の伊勢原大山インターが開業し、七沢地区の交通量は増加したものの、厚木はただの通過点になっており、インターから直接清川・宮ヶ瀬方面に行ってしまう。通り道になる七沢に、観光客が立ち寄れる拠点施設を作っていただき、厚木の物産品の販売や観光案内ができるとよい。市としても検討していただきたい。

(委員) 私は厚木市に50年以上住んでいるが、住み続けているが故に、厚木の良さが分かりづらくなっている。周辺地域と比較して、厚木の良さが何なのかを考えるようにしている。

以前、旅行会社に勤めていた際、伊東温泉や湯河原温泉の観光協会の会議に参加したことがあり、その時も観光客の誘客に苦慮していたが、この委員会で厚木市の観光について考えるようになってからも、誘客の難しさを改めて実感した。

(委員長) 住民が、自分が住んでいる街を観光することはあまりないので、自分の街の良さが見えにくい部分もあると思う。

(委員) 初めて本委員会に参加したが、観光振興にかかわる皆さまと意見交換できたので、とても貴重な機会だった。

(委員) 厚木市といえば、やはり「あつぎ鮎まつり」である。しかし、

このコロナ禍の中で、しばらくの間は市の予算以外で費用を集めるのは難しく、花火大会で打ち上げる花火の本数も減ってしまうと思う。その中でも、近隣の花火大会に無いような、魅力的な花火を打ち上げるような工夫がほしい。

また、飯山白山森林公園の桜について、桜は花が咲く期間が短いことから、開花時期の異なる複数の種類の桜を植えることで、長期にわたって観光客を誘客できるのではないかと。

(委員)

当初、厚木市は「鮎」や「花火大会」のイメージだったが、本厚木駅の駅長に着任してからは、「温泉」がある魅力的な地域であることを知り、厚木の温泉まで誘客できないか考えていた。

小田急電鉄としても、観光ポスターを張り出したり、観光キャンペーンを実施したりするなど、市と連携した様々な取組を行ってきたが、コロナ禍においてはこれまでのような取組はできなかった。アフターコロナにおいて、定期利用がコロナ前の8割程度までしか戻らないと言われていることから、今後は、定期以外で利用される方々の人数をどれだけ増やすかが課題となっている。

今後、世田谷区・新宿区・渋谷区など、沿線の住民をターゲットとするのであれば、代々木上原駅や下北沢駅等の主要な駅に観光ポスターを貼るような協力はできると思う。

今年4月、海老名駅にロマンスカーミュージアムが開業する。ファミリー層の来訪が予想されるので、ミュージアムとあわせて厚木市でも遊んでもらえるような施策が打てると良いと思う。

#### 4 その他 議事進行：委員長

##### 【意見等】

(事務局)

次年度、1回目の委員会は6月の開催を予定している。4月から委員の募集を始めるので、引き続きご協力いただきたい。

(委員)

本委員会から市長へ提出した答申について、内容は計画内に反映されたのか。

(事務局)

答申の内容は委員会3回分で皆さまから頂いたものを記載しており、計画書内にも反映している。

#### 5 閉 会

厚木市産業振興部観光振興課長

以上